

イーグルバスについて

飯能市は、国際興業バス、西武バス、イーグルバスの3社が飯能駅を起点に運行しています。国際興業バスは、原市場・名栗方面、南高麗方面、双柳方面、西武飯能日高団地方面、埼玉医大方面などを運行しています。西武バスは、美杉台方面、青梅方面、狭山市駅方面を運行しています。そして、イーグルバスは、中山方面、宮沢湖方面、高萩駅・ひだか団地方面を運行しており、鉄道駅のない地域にとってはこれらの路線バスが重要な公共交通となっています。

イーグルバスは、送迎バスや貸切バスを主にバス事業を展開していましたが、2003年から路線バス事業に進出し、飯能市内の路線は、2006年に西武バスから路線を受け継ぎました。イーグルバスの社長は、テレビにも多数出演し、路線バス維持確保のための取組を紹介しています。川越市内では、乗務員が車内で観光案内をしたり、観光者向けのボンネットバスの運行をしています。また、バス車内にセンサーを設置し、バスの運行状況やバス乗客数、利用者のニーズなどを把握するバスの「見える化」を図っています。市内を運行している日高飯能路線についてもこの「見える化」により、運行ダイヤの見直しや靖和病院や宮沢湖温泉喜楽里別邸にバス停を設置するなどの改善を行い、乗客数も伸ばしています。しかしながら、元々は西武バスが手放した路線であり、利用者は限られた路線であったことから、様々な取組をして以前よりは乗客が増えていますが、路線を維持確保していくには、大変厳しい状況となっています。現在の主な利用者は飯能駅を利用する市外からの通勤・通学者や飯能駅から宮沢湖の温泉に行く方など、市外からの利用者が大部分を占めています。市民にとって、また地域にとって重要な移動手段となる路線バス。もし、イーグルバスがこの路線を維持できなくなったら、これまでの経緯から受け継いでいただける事業者はないかもしれません。いつまでもイーグルバスが運行する地域になるよう通勤や通学、買物、宮沢湖の温泉にぜひご利用ください。バスで温泉に行けば、湯上りのビールも楽しめます。



名栗地区バス停留所名の由来について

バス停留所の名称は、「さわらびの湯」といった周辺施設、「工場前」といった周辺の環境、「仲町」などの地区名称などが一般的ですが、名栗地区の国際興業バス路線には変わったバス停名がたくさんあります。

シリーズで名栗地区のバス停名の由来を紹介します。景色を見て季節を感じ、そしてバス停名の由来を思い出しながらバスの旅をお楽しみください。

- 小沢(こさわ)・・・峠から流れ出した小さな沢の水が、この地域で入間川に入ります。入間川に入り込む「小さな沢」が由来です。
- 市場(いちば)・・・この地の対岸には昔「根小屋城」というお城がありました。このお城の周辺には「市場」が開かれたとのこと。
- 峯(みね)・・・山の頂(いただき)が目の前に続く地を「峯」といいます。この場所は古くから山の頂の見える場所です。
- 四海橋(しかいばし)・・・名栗地区の第四区と浅海戸地区を結ぶ橋で、「四」と「海」を渡らして「四海橋」と名付けられ、バス停名にもなっています。